

カンボジア見聞録# 1

カンボジアへ到着！

プノンペン空港に着陸したタイエアー航空機からターミナルへの接続通路に出ると、すでに日は暮れているのかかわらず、もわっと熱気に包まれた。タイ経由で来たから結構な長旅であった。

カンボジアはもとより、東南アジアは初めてである。日本地雷処理を支援する会、通称 JMAS のカンボジア現地統括代表という立場で来たが、これからどんな勤務と生活になるのかちょっとワクワクしながら降り立った。

カンボジア第一印象は「交通事情すごい」

カンボジアの第一印象は強烈な日差しの眩しさと暑さで、連日 40 度℃である。これから毎日これかと思うと少しめげる。5 月は乾季の終わりで一番熱いのだそうだ。



そして交通事情はすごい一言。とにかくバイクが多い。日本のスーパーカブやスクーターに似た 50cc から 125cc くらいのものが主流である。バイクが車をすり抜けるというよりバイクの波の中を車が走っているという感じである。道路は米国のように車両が右側だが、一番右の歩道脇は逆行するバイクもいる。また写真のようにすいていけばセンターラインを越えこちら車線も平気で走ってくる。

またかなりの数のツクツクが走っている。いわゆるオート三輪型のものもあるが大多数はスーパーカブ型バイクが引っ張る屋根付きリヤカーである。信号機はあまりない。片側 2 車線で上下 4 車線ある渋滞気味の道路と片側 1 車線の交差点は信号機なしで事故もなく交差している。へこみのある車もほとんど見ない。



走っている車もバイクもツクツクも時速40km弱の速度で走っている。前が空いていても日本のように加速して車間を詰めようとはせず一定速度で走る。JMASの公用車のドライバーはベテランで何度か乗せてもらったから運転要領は理解したがとても自分で運転する勇気はない。交差点に入っていくコツはとにかく一時停止

せずやや減速してまずは進入する。一定速度で入っていくのがポイントで、道路を走っている車両は、自分の前に直交する形で車が入ってきたら、その前を横切ってしまうか、そのまま行けばぶつかるかを判断し、ぶつかると思えば入られた側が減速する。バイクも前を横切るか、減速するか、入ってきた車に行かせてその後ろに行くか判断して操縦する。とにかく一定速度が原則で急加速、急停止はご法度。従ってお互いに周りの車の未来位置を正確に予測して衝突を避ける。日本の交差点のように優先道路などという概念があったらとても交差できない。こちらではとにかく先にすると頭を突っ込んだ方が優先であるから多少は減速するものの不思議なほどスムーズに上下4車線の込み合った車道を横切ってしまう。これはなかなかスリリングではある。そして驚くほどクラクションが鳴らないのもすごい。頭を先に突っ込んだ方が優先だから、それに抗議して鳴らすということはないわけである。

プノンペンバイク事情

日本では自転車交通上問題になっているほど多いがこちらではそれほど走っていない。気温40度℃となると自転車はダイエット目的以外に乗りたくはないだろう。その代わりにバイクである。病院や大学など人が集まる場所は、日本の駅前の自転車置き場の自転車がバイクに代わったと思えば間違いなく、これまたすごい景観である。ガソリンスタンドももちろんあるが、路ばたの出店風ガソリン売り場がある。最初は清涼飲料水売り場かと思ったが、いくらカンボジアでもあんな変色したコーラはないだろうと思ってみると、どうもガソリンのよ



うだ。気温40度℃の炎天下に瓶入りガソリンはあまり近づきたくないものである。

バイクは125cc以下が免許不要で125cc以上は免許が必要らしい。日本では排気量によってナンバープレートの色が違うから排気量の識別可能だが、こちらでは同じプレートで似たようなバイクで見分けはつけにくい。ドライバーに「そうすると無免許で125cc以上に乗る人も多いだろう」というと「イエス」と即答した。あるカンボジア紹介記事によると



バイク登録数270万台に対して免許保有数は20万人というから、走っているバイク13台に一人しか免許を持ってないことになる。

小型バイクはタクシーのように有料で後ろに人を乗せて営業しているものもある。また家族全員？若い夫婦に小さな子供3人計5人乗せて走っているのを見た。スーパーカブに荷物満載で片手運転のおじさんもいる。ただヘルメットだけはほとんどの人が被っている。

金銭・銀行

こちらでの買い物は基本的にUS\$である。スーパーでも土産物屋でも値札はドル表示が原則。お釣りも1ドル単位まではドルでくれる。ただし1ドル以下はカンボジア通貨で、1ドルが約4000リエルで換算し紙幣でお釣りをくれる。1000リエルが25セント位と覚えておけばよい。まだ短い経験だが、ドルも使えるというより、ドルが主体のようだ。25セントや10セントという硬貨がない部分にリエルでお釣りに使うという感じである。日本のクレジットカードや、デビットカードは大きな店では使用可能である。近所の小さな食堂や野菜・肉・魚などを売っている市場では現金だからやはり手持ちの現金も必要である。東京の口座からこちらのATMでドルを引き出すことはできるが、一度に250ドルしか引き出せないのと手数料を4ドル取られる。私もプノンペンの銀行に口座を作り、一時帰国の際現金をもってきてその口座へ預けて必要に応じてATMで現金を引き出すことにした。口座を作るため訪れた銀行のパソコン普及率はまだ多少の遅れがあるようで口座開設もカウンターの女性がすべて手書きで書類を作っていた。ただ指紋認証のため親指の指紋を取られたがこれはPCに入力する読み取り機で指紋を登録した。また顔認証のためか写真も取られた。カンボジアの入国審査でも顔写真は撮られたから顔認証システムは

整っているのかもしれない。口座開設した銀行は **JMAS** への入金や給与支払いなどで使っている結構大手の銀行である。扱っている金はドルが主体で書類への記入も金額はすべてドルで記載する。通貨を自国のものを流通させることは国家にとって優先課題と思うが、なぜドルが流通しているのか素人の私にはわからない。もっとも我々外国人にはなじみのある米ドルは便利ではある。

カンボジアと韓国との関係

女性銀行員は黒いタイトスカートに白いブラウスと黒いジャケットで日本の銀行と似たようなファッションで、皆さんスタイルも良くなかなか魅力的である。ただ足元はサンダルである。勿論ビーチサンダルではなく、もうちょっとおしゃれっぽいものだが、そうすると足は素足、おやじ丸出しの表現だと生足である。まあ暑いから当然と言えば当然か。顔はしっかりメイクしているが眉の描きかたなど日本風メイクというよりむしろ **K-POP** 風メイクに近いかもしれない。色の浅黒い人もいるが彼女のピンクの口紅はなかなか良かった。トランジットのバンコク空港で見た観光案内にある化粧品関係の広告写真を見るとファッションは完全に韓国風であり、イケメンの見本は **K-POP** 風の男性モデルである。カンボジアも韓国風のメイクが流行しているようだ。韓国と言えば銀行の壁に各国の時間を示す時計が並んでいた。ロンドン、パリ、ニューヨーク、北京はいいとして東京タイムがない。その代りなんとソウルタイムの時計がある。ちょっとびっくり。調べてみるとカンボジアと韓国の関係はかなり歴史的にも深いものがあるし、仁川空港からはプノンペンとシェムリアップに直行便があるが日本はまだない。またビザをもらうのに32ドル大使館に取られたが韓国人はビザなしで来るらしい。カンボジアと韓国の関係は、進出企業もカンボジアへの観光客、滞在者数ともに日本をはるかに凌駕している。ただ貿易額は日本が多く、陸自が最初に出した **PKO** もカンボジアだった。さらに **ODA** は最高額で、**JMAS** も頑張っているのにカンボジアと日本の関係は韓国に追いついていないようだ。まずは **J-POP** の **AKB48** のプノンペン版 **PP48** を編成し、欧米を席卷している「カワイイファッション」を通じて日本を売り込むのはどうだろうか。外務省の奮闘を期待したい。

私にとって初めての地であるカンボジアで見聞して驚いたり感心したりすることがたくさんあると思う。これからそんなことを感じたままに書いてみようと思う。

つづく